

仙台高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	材料力学 I A	
科目基礎情報						
科目番号	0019		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	書名: 材料力学 著者: 中島正真 発行所: コロナ社					
担当教員	奥村 真彦					
到達目標						
引張り・圧縮・熱をうける部材の強度が計算でき、安全性を評価できるようになること。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
応力とひずみの関係		応力ひずみ線図を基に、材料の特性を評価できる。	応力ひずみ線図を理解し、説明できる。	応力ひずみ線図を理解しておらず、説明できない。		
軸に沿った力を受ける静定はり		太さや材質などが一様でない静定はり軸に沿った力を受けるとき、そのはりに生じる応力を計算できる。	太さや材質などが一様な静定はり軸に沿った力を受けるとき、そのはりに生じる応力を計算できる。	太さや材質などが一様な静定はり軸に沿った力を受けるとき、そのはりに生じる応力を計算できない。		
軸に沿った力を受ける不静定はり		太さや材質などが一様でない不静定はり軸に沿った力を受けたとき、そのはりに生じる応力を計算できる。	太さや材質などが一様な不静定はり軸に沿った力を受けたとき、そのはりに生じる応力を計算できる。	太さや材質などが一様な不静定はり軸に沿った力を受けたとき、そのはりに生じる応力を計算できない。		
二軸応力状態		モールの応力円を用いて、与えられた応力状態から最大・最小主応力を評価できる。	モールの応力円を理解し、説明できる。	モールの応力円を理解しておらず、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 1 機械工学に関する確かな基礎力を備えること。						
教育方法等						
概要	理論的な背景の解説と演習を通じて、力が作用した時の機械や構造物の強さ、剛性、変形および安定性に対する計算方法を学び、強度などの点から実際の設計における具体的な形と寸法が定められるようにする。応力とひずみ、材料の強さ、引張りと圧縮、熱応力について学習する。					
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、演習を行う。受講に際し、予習として受講する週の授業とその1つ前の週の授のつながりを把握しておくこと。また、授業を受講した後、来週に向けて復習すること。					
注意点	微積分と三角関数を十分にマスターしていること。演習を随時行うので、電卓等を準備しておくこと。当科目は物理の力学と関連する科目である。材料力学IB、同IIと連携する。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	材料力学の役割を説明できる。		
		2週	軸に沿った荷重を受ける棒に生じる応力①	棒の両端に対し、その軸に沿った荷重をかけ、静止させた状態を基に、垂直方向の応力およびひずみの考え方を理解する。また、応力とひずみの重要な関係式であるフックの法則についても理解する。		
		3週	軸に沿った荷重を受ける棒に生じる応力②	棒の両端に対し、その軸に沿った荷重をかけ、静止させた状態について、垂直方向の応力およびひずみが計算できるようにする。		
		4週	軸に沿った荷重を受ける棒に生じる応力③	棒に対し、その軸に沿った複数の荷重がかかる場合や、棒の断面積やヤング率が変化する場合について、応力およびひずみが計算できるようにする。		
		5週	軸に沿った荷重を受ける棒に生じる応力④	自重や遠心力などによる棒の伸びを、積分の考え方を応用して計算できるようにする。		
		6週	引張荷重によって破断に至るまでの材料の挙動	材料に引張荷重をかけて破断させる過程について、荷重の値の増加に対し、鋼材の伸びの値がどのように変化するか、応力およびひずみと関連付けて理解する。また、比例限度などの専門的な呼称を記憶する。		
		7週	設計に関わる重要事項と応力集中	部品を設計する際に基準となる応力について、その定め方を説明できるようにする。また、応力集中という現象について理解する。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	簡単な不静定問題	静定と不静定を説明できる。		
		10週	簡単な不静定問題	簡単な不静定問題の応力を求めることができる。		
		11週	簡単な不静定問題	簡単な不静定問題の応力を求めることができる。		
		12週	熱応力	熱応力を説明できる。		
		13週	傾いた面の応力	傾いた面上の応力を説明できる。		
		14週	二軸応力とひずみ	多軸応力状態を説明できる。		
		15週	期末試験			
		16週	全体の振り返り	材料力学IAで学んだ内容について、失念しているポイントをなくす。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	力学	荷重が作用した時の材料の変形を説明できる。	4	前2,前6,前8,前16

			応力とひずみを説明できる。	4	前3,前4,前5,前8,前16
			フックの法則を理解し、弾性係数を説明できる。	4	前3,前4,前5,前8,前16
			許容応力と安全率を説明できる。	4	前7,前8,前16
			両端固定棒や組合せ棒などの不静定問題について、応力を計算できる。	4	前9,前10,前11,前15,前16
			線膨張係数の意味を理解し、熱応力を計算できる。	4	前12,前15,前16
			引張荷重や圧縮荷重が作用する棒の応力や変形を計算できる。	4	前2,前3,前4,前5,前15,前16
			多軸応力の意味を説明できる。	4	前13,前14,前15,前16
			二軸応力について、任意の斜面上に作用する応力、主応力と主せん断応力をモールの応力円を用いて計算できる。	4	前14,前15,前16

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
試験時の到達度	100	100